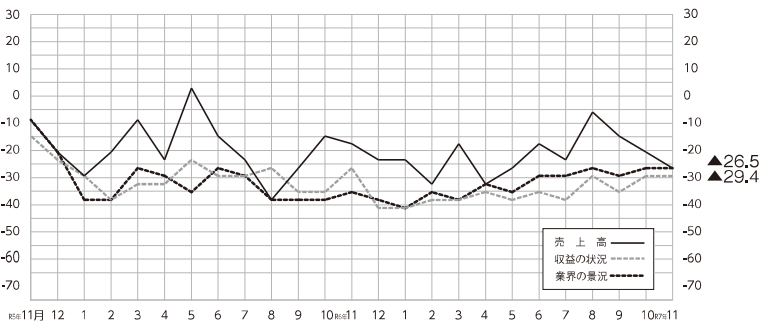




情報連絡員報告

DI(景気動向指数)



業界の状況



	旅館・ホテル	宿泊の動きは活発であるが、人手不足で受け入れられないケースがある。宴会も忘年会等予約が堅調に伸びている。
--	--------	--

	食品団地	企業によってはバラツキがあるものの、全体的には前月と同様に推移。「あんぱん」効果が継続しており、観光関連の企業は好調を維持。最貴改定への対応や原材料の高騰に腐心している。
	テントシート	原材料の高騰について、販売価格への転嫁が出来つつあると思われる。製品の値上げは落ち着いた雰囲気だが、まだまだ厳しい状況である。
	木製品素材生産	11月期の原木出材量は、天候等も良かった。また、最盛期を迎えていることから増加している。しかし、丸太価格については、引き合いはあるものの相変わらず製材品の動きがあまり良くなく、全体的に横ばい状況。今後、12月は若干減少するものと思われるが、積雪などがなければ出材量はほぼ横ばいと思われる。原木価格については、市況の動向が悪く大きな変動は見込めない状況。
	製紙(家庭紙)	紙製品全体としては、先月に続き、販売金額は前年同月比で増加したが、販売量は変化がなかった一方、生産量は少し下回った。品目別では、雑種紙が販売金額、販売量ともに前年同月比で小幅増したのに対し、衛生用紙は販売金額、販売量とも下回った。
	製紙(手すき和紙)	前月は少し動き出し、売上も少し上向きだったが、今月はお得意先で決算期のところもあり、少し注文控えとなった。なかなか景気回復は感じられない。
	生コンクリート製造	11月度の組合員の単月出荷量は、対前年比 85.9 %、4月からの累計出荷量も対前年比 83.4 %で引き続き低調であった。単月出荷量は、中部・高幡地区は増加傾向にあるが、その他の地区は対前年比70～80%前後で減少傾向にある。4月からの累計出荷量も単月と同様な傾向にある。
	コンクリート製品	対前年同月比129.0%。ここ数カ月、前年度と比較すると出荷量は多くなっている。災害復旧事業の状況及び補正予算の状況から、今後は前年度並みに推移すると考えている。
	刃物製造	今月は、付属品の入荷が悪く、出荷が思い通りに進まない状況になり、前年を大きく下回ってしまった。受注の方も少し落ち着いてきた感がある。
	機械団地	団地内の業況に特段の変化はなく、引き合いの多い一部企業を除き、売上・収益とも横ばいから減少で推移している。
	船舶製造	高水準の生産が継続している。
	珊瑚装飾品製造	11月度の取引額は前年同月比で109%となり、7カ月連続で前年を上回る結果となった。しかし、コロナ禍以前の水準までの回復には至っていない。
	青果卸売	11月の取扱高は組合員全体で前年対比94.3%となった。上昇の気配はあるがまだまだな状況。今年の1月から11月までの累計でも92.7%となり依然厳しい状況が続いている。
	生鮮魚介卸売	前半はカツオが順調に入荷していた。後半になって、急に少なくなってきた。ブリの入荷がおもわしくなく、年末に向けて不安。数の子、イクラ他、年末商材の値上がりが大きく大変である。
	電気機械器具小売	11月度は金額で前年比108.6%。リフォーム関連商品金額で109.3%、4K8Kテレビ前年比93.6%、白物家電平均で前年比103%であった。

	中古自動車小売	幅広い価格帯の販売及び注文件数が増加傾向にあり、これから繁忙期に向けて店頭在庫の確保も同時に仕入れをしているが、以前からの相場高騰で厳しい状況である。
	商店街(高知市)	駐車場状況について、11月の駐車場利用台数は、前年同月比112.4%(2,952台増)となった。また、料金収入は前年の110.2%(830千円増)と増加している。人流カメラによる集計では、11月の来街者数は前年同月比3.6%増となった。11/10に阪神タイガース優勝パレードの開催や、11/21～24まで東洋電化中央公園で、「第3回こうちラーメン博」の開催が大きな要因となった。11月のクルーズ船入港数は6隻で、前年と同数であった。免税売上は前年を上回る結果となり、入港当日は午前中から多くの外国人観光客が商店街を訪れ、大変にぎわいとなった。
	商店街(四万十市)	商振連・女性部が一條大祭に合わせスタンブラリーを開催。告知のチラシを増やし力を入れた。約2週間の期間であるが地域の商店を行き来する老若男女が増えた。知らない店のドアを開けるきっかけになればと思う。
	飲食店	先月に引き続き本月も売上高で前年同月をやや上回った。集客は前年度と同程度ながら、販売価格が上昇しているため、売上高も増加している。ただし原料費・光熱費・人件費等の上昇幅はさらに大きく、収益が好転するまでには至っていない。前年同月に比べさらに物価は高騰。光熱費・仕入れ価格・人件費、ありとあらゆるものが上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。
	旅行業	組合クーポン前年同月対比86%(報告未集計あり)、全旅クーポン合算後前年同月対比109%。前年割れの売上については、好調だった前月の反動であると判断している。
	IT事業	11月の売上は前年同月比で約5割増となり、大きく伸長した。前月比でも3割以上の増加となり、上昇基調がより鮮明になっている。今月は複数の大型案件が重なり、過去5年間で最も高い11月の売上を記録。また、例年の11月平均を大きく上回る結果となり、事業の成長性を改めて確認できた。20周年記念パーティーも無事に開催され、多くの関係者から祝意をいただき、節目として大きな励みとなった。さらに、新しいメンバーの加入により体制が強化され、従来とは異なる領域での受注も見込める状況だ。引き続き、積み上げてきた信頼を基に、新規領域への挑戦と安定成長の両立を目指して取り組んでいきたい。
	電気工事	組合員の施工する電力引込線工事量は、前年同月比108.5%となった。各地区で増減があったが、全体として8.5%増加した。
	一般貨物自動車運送	軽油税が来年4月1日に廃止が決定した。廃止に向けて政府補助金が増額となったため軽油価格は3円程度の値下げとなったことは年末の繁忙期に向けて好材料ではあるが、先月と変わらず荷動きが鈍く、業績が向上いたとは言えない状況といえる。

	タクシー	実働1日1車当りの前年同月対比運送収入:101.4%、回数:101.5%、実働率:51.9%。運転者が高齢化しており、退職する者が多くなっているが、反面なかなか新しく希望してくる者が少なく、タクシー事業の先行きを不安視する声もある。稼働率が増えないと経営は厳しい。
--	------	--

	酒類製造	10月以降の値上げの影響で減少が続く。今秋値上げがなかった業者についても値上げを予定。やはり原料米の価格高騰による異常な状況といえる。
	製材	県内建築需要は低調で、県外企業の進出もあり厳しい状況が続くとの声が多い。
	建具	個人住宅、公共工事ともに少なかった。組合が組合員に販売した材料も少なかった。
	印刷	先月に引き続き売上、操業度とも多少は改善傾向が見えたが、前年対比は割れている。県内需要は厳しく、特に官公庁の需要がデジタル化によって激減の感。県外需要については一部好調な業種も有り微増か。いずれにしても厳しい状況が続いている。
	卸団地	12月からの最低賃金アップに伴う労務費増加を見込み、賃上げ交渉を行う企業が多く、年明けからの状況は更に厳しさを増すとの声を多く耳にする。11月は、「あんぱん」効果もひと段落を迎えてきた閑散期ではあるが、中国からの観光客が減少していることもあり、観光、外食は非常に例年より落ち着いている印象である。景気回復は感じられない。最低賃金改正で、経営は厳しくなる。店頭での動きが良くない。
	各種小売(四万十町)	11月は町内で大きな地域イベントがあったものの、天気も影響し効果は限定的であった。近隣地域の商店街振興団体(スタンプ会)も今年いっぱいでの廃止を決定するなど、地域経済を担ってきた仕組みが先細りしている。個店においては、業種による浮き沈みが顕著になっている。
	ガソリンスタンド	11月27日現在の補助金はガソリン20円・軽油17.1円となっており、軽油については暫定税率に到達したため、これ以上の値引きはなくなった。ガソリンについては残り5.1円が12月11日に補助金が増し、それで補助金が打ち止めとなり、年末にはガソリンの暫定税率が廃止となりプラスマイナス0になる。軽油の暫定税率廃止は3月末になりそうであると同時に暫定税率のない灯油・重油については現在も5円の補助が継続されており、このままだと3月末に軽油の暫定税率が廃止になれば、灯油・重油の補助もなくなり5円の値上げとなる。
	商店街(安芸市)	今年リーグ優勝を果たした阪神タイガースの秋季キャンプでは、県内外からたくさんの方が訪れた。商店街では、市外から移住した元漁師が営む海鮮居酒屋「笑色」がオープンした。
	クリーニング	消費者の節約志向は根強く、需要の減少傾向が続いている。特に郡部では著しい。ガソリン価格値下げになったが、資材価格は上昇、最低賃金大幅アップなど経費上昇傾向は変わらない。チェーン店ではコロナ禍の借入返済に加えて、売上に対して家賃・人件費負担が重くのしかかっている。一ガリネン、ユニフォーム関係は堅調に推移しているが、人手不足が課題。
	一般土木建築工事	工事発注件数の減少により、収益の落ち込みが見られる。地域によって偏りがあるのではないかと意見も出ている。